名古屋の大雪と京ちゃん

先週の木曜日、名古屋は久しぶりに大雪にみまわれた。9 年ぶりに積雪が 20 センチを超え、通勤・通学の足に大きな影響が出た。街中では、雪かきをする人の姿も見られた。

雪の京ちゃんの写真を送ってもらった。9 年ぶりなので、京ちゃんは初めて大雪を見たわけだ。自宅前に広がる一面の銀世界を見て、どんな感想をもったか聞いてみたい。

1 限目は校庭で雪遊びとなり、じつに楽しかったそうだ。校庭で雪合戦などに駆け回る生徒たちのなかで、京ちゃんも心を弾ませているのが、何枚かの写真から伝わってくる。写真下はクラスの友だちが、京ちゃんに雪を触らせているところだ。この日はとくに寒い日であり、冷たい雪をどう感じたのであろうか。

京ちゃんの学校生活について、「学芸会」の映像などを見せてもらったが、いつも感じるのはクラスのなかにとけ込んでいることだ。京ちゃんは 3 年 1 組の一員として、きちんと「居場所」があり、クラスの仲間と楽しい学校生活を送っている。雪遊びの写真を見て、そのことを再確認できた。

この日は名大図書館に行くつもりであったが、「安全」を考えて中止した。本山から歩くので、あの坂道は危険きわまりない。買い物には行ったが、家でレポートを書いたりして過ごした。この「判断」は正しかったようだ。翌日、名大に向け歩いたが、まだ凍っているところが多く、何度も滑ってしまった。よく大雪による事故が報道されるが、凍りついた路上での事故も軽視できない。

大雪というと、やはり「サンパチ 38 豪雪」を想い起す。親父の転勤により、名古屋から高山へ引っ越した年の大寒波である。サイトによると、昭和 38 年 1 月に日本海側は空前の大雪にみまわれた。高山も 1 月 7 日に 64 センチ、13 日に 54 センチの積雪とあった。松倉中学(当時、近くに原山スキー場があった)に雪かき持参で登校し、雪かきばかりした記憶がある。地元の友だちと違って、慣れない雪かきに悪戦苦闘した。

「38 豪雪」は大学の講義でも映像をよく流した。「裏日本に記録的な豪雪」「裏日本に豪雪つづく」といったニュース映画である。福井の永平寺の被害なども印象に残る。大雪のこわさを実感したものだ。当時は「裏日本」という用語も使われていた。今回の大雪により、半世紀も前のことが甦ってきた。

(2014 年 12 月 25 日)